

古文ドリル：「る・らる」（受身・尊敬・可能・自発） 100問

対象：高校生・大学受験生 著作権：個別指導塾フィット / 中本裕太

はじめに：「る・らる」の4用法

「る」「らる」は古文の助動詞で、**4種類の意味**を持つ識別最頻出語。

用法	訳	判別ポイント
① 受身	～される	動作主が他者
② 尊敬	お～になる	主語が高貴な人
③ 可能	～できる	多くは打消「ず」と一緒
④ 自発	自然と～される	心情・知覚動詞

接続

- ・ **る**：四段・ナ変・ラ変の **未然形** に接続
- ・ **らる**：その他（上一段・下一段・カ変・サ変・上二段・下二段）の **未然形** に接続

識別の鉄則

1. 打消「ず」が直後 → 可能の打消「～できない」
2. 主語が高貴+他の敬語と共起 → 尊敬
3. 動詞が心情・知覚系（思ふ・嘆く・偲ぶ・覚ゆ・聞こゆ・見ゆ） → 自発
4. 動作主が他者 → 受身

重要：肯定で「可能」は古文では稀。多くは打消とセット。

🎯 解き方のコツ（時短テクニック）

「識別の鉄則」は文法的に正しい順序。

こちらは **試験本番で3秒で答えを出す** ための実戦テクニックです。

コツ① 直後に打消「ず／ぬ／ね」があったら **可能** で即決

- ・「～られず」「～られぬ」「～られね」 → ほぼ **可能の打消** 「～できない」
- ・古文では肯定の可能はほぼ出ない。打消とセットを見たら即「可能」と答える。
- ・これで頻出パターンの **2～3割** が一発で片付く。

コツ② 直前の動詞が「心情・知覚系」なら **自発**

- ・「思は**る**／嘆か**る**／偲**ぶ**／覚え**らる**／聞こえ**らる**／見**らる**」
- ・心の動き・自然な感覚を表す動詞＋る／らる → **自発** 「自然と～される」
- ・動詞のジャンルを覚えるだけで瞬時に決まる。

コツ③ 主語が高貴な人＋他の敬語と共起 → **尊敬**

- ・「帝」「上」「中宮」「殿」など貴人が主語で、文中に「給ふ／おはす」など他の敬語があれば **尊敬** 「お～になる」
- ・「仰せ**らる**」「思**さる**」など固定表現も多い。

コツ④ 残った場合は **受身**

- ・上記3つに当てはまらなければ大体 **受身** 「～される」
- ・「人に～らる」「鬼に～らる」のように動作主（～に）が示されていれば確定。

試験本番でのチェック順序

1. 直後に **打消** 「ず／ぬ／ね」 があるか → YES なら **可能**
2. 直前の動詞が **心情・知覚系** か → YES なら **自発**
3. 主語が **貴人＋敬語共起** か → YES なら **尊敬**
4. どれでもなければ **受身**

→ この順番で **3秒** で答えが出ます。

よくある引っかけ

- ・「寝**らる**」「寝**らる**れど」など、感覚動詞で打消が来ても **可能** より **自発** の方が訳が通る場合あり → 訳で確認
- ・尊敬の「る・らる」は **二重敬語にはならない**（最高敬語にしたい時は「す・さす・しむ＋給ふ」を使う）

- 「**仰せらる**」は「仰す（尊敬語）」＋「らる（尊敬）」で**二重敬語的に見えるが最高敬語ではない**

採点表

- 基礎（Q1～Q20）： /20
- 標準（Q21～Q50）： /30
- 応用（Q51～Q80）： /30
- 入試レベル（Q81～Q100）： /20
- 合計： /100

【第1部】基礎編（Q1～Q20）

Q1. 「**る・らる**」の用法を答えよ。

親に**叱らる**。

Q2. 用法を答えよ。

上、**仰せらる**。

Q3. 用法を答えよ。

字、**読まれず**。

Q4. 用法を答えよ。

故郷を思へば、涙ぞ**こぼるる**。

Q5. 用法を答えよ。

帝、御文を書かせたまふ。

Q6. 用法を答えよ。

雨に濡らさる。

Q7. 用法を答えよ。

君、寝らる。

Q8. 用法を答えよ。

暗くて、人に見られず。

Q9. 用法を答えよ。

故人を思ひ出でらる。

Q10. 用法を答えよ。

嘆かる。

Q11. 用法を答えよ。

風に飛ばさる。

Q12. 用法を答えよ。

帝、御幸したまふ。

Q13. 用法を答えよ。

心定まらずして、なほ書かれず。

Q14. 用法を答えよ。

故郷を偲ぶる。

Q15. 用法を答えよ。

大臣、仰せらる。

Q16. 用法を答えよ。

心の奥を見透かさる。

Q17. 用法を答えよ。

京を出でらる。

Q18. 用法を答えよ。

聞こゆ。

Q19. 用法を答えよ。

暗くて、字読まれず。

Q20. 用法を答えよ。

雷に打たる。

基礎編 / 20

【第2部】標準編 (Q21~Q50)

活用形と訳のバリエーション、敬語との共起。

Q21. 用法を答えよ。

人に笑はる。

Q22. 用法を答えよ。

大納言、いとうつくしと見らる。

Q23. 用法を答えよ。

苔の上、踏まれず。

Q24. 用法を答えよ。

昔のこと、ふと思ひ出でらる。

Q25. 用法を答えよ。

御車をひかる。

Q26. 用法を答えよ。

上、いみじう涙落とさせたまふ。

Q27. 用法を答えよ。

心細さに、故郷の事覚えらる。

Q28. 用法を答えよ。

風の音にも驚かる。

Q29. 用法を答えよ。

賊に縛らる。

Q30. 用法を答えよ。

中宮、御文書かせ給ふ。

Q31. 用法を答えよ。

暮るるに、家に帰られず。

Q32. 用法を答えよ。

上、御簾の中より見らる。

Q33. 用法を答えよ。

あはれと感じらる。

Q34. 用法を答えよ。

親に許されぬ恋。

Q35. 用法を答えよ。

鳥の声に、心動かる。

Q36. 用法を答えよ。

上、内裏より出でらる。

Q37. 用法を答えよ。

鬼に追はれぬ。

Q38. 用法を答えよ。

物の音に、めざめらる。

Q39. 用法を答えよ。

御めぐみ、いみじう被らる。

Q40. 用法を答えよ。

心、なほ静まられず。

Q41. 用法を答えよ。

大臣、御文を読ませたまふ。

Q42. 用法を答えよ。

露に袖濡らさる。

Q43. 用法を答えよ。

故里の山々、ふと見らる。

Q44. 用法を答えよ。

帝、すべて聞こし召さる。

Q45. 用法を答えよ。

我れ、月の光に妬まる。

Q46. 用法を答えよ。

風の冷たさに、わが袖の薄さ思ひ知らる。

Q47. 用法を答えよ。

急ぎ過ぎて、足取らる。

Q48. 用法を答えよ。

院、御琴を弾かせ給ふ。

Q49. 用法を答えよ。

暁の鳥、自づから鳴き出でらる。

Q50. 用法を答えよ。

何ともいはれず。

標準編 / 30

【第3部】 応用編 (Q51~Q80)

係り結び・連体形・敬語連動。

Q51. 用法を答えよ。

我が宿の梅、知る人に折らる。

Q52. 用法を答えよ。

涙のこぼるるを、人に知らるまじ。

Q53. 用法を答えよ。

思へど、いふべきにあられず。

Q54. 用法を答えよ。

中宮、御簾を上げさせたまふ。

Q55. 用法を答えよ。

御所より召し出ださる。

Q56. 用法を答えよ。

鳥獣に恐れらる。

Q57. 用法を答えよ。

いみじき露しげき野を分け給ふに、御袖もえ濡らされず。

Q58. 用法を答えよ。

故院の御事、忘れがたく思ひ出でらる。

Q59. 用法を答えよ。

帝、御涙を流させ給ふ。

Q60. 用法を答えよ。

矢を射らる。

Q61. 用法を答えよ。

御様、いみじうおぼし召さる。

Q62. 用法を答えよ。

夢に故人を見らる。

Q63. 用法を答えよ。

嵐に倒さる。

Q64. 用法を答えよ。

いみじきこと言ひ出でられぬ。

Q65. 用法を答えよ。

御文、いつしか書かれたり。

Q66. 用法を答えよ。

月見れば、いとどさびしさまさる。

Q67. 用法を答えよ。

いかにせらるべき。

Q68. 用法を答えよ。

親に責めらる。

Q69. 用法を答えよ。

山深きにて、人にも逢はれず。

Q70. 用法を答えよ。

御目とまらる。

Q71. 用法を答えよ。

故里の事覚えらるを、人に語る。

Q72. 用法を答えよ。

御文をささげさせ給ふを、上より召し出ださる。

Q73. 用法を答えよ。

笠なくて、雨に濡らされぬ。

Q74. 用法を答えよ。

我が思ひ知らる。

Q75. 用法を答えよ。

こなたへ近く参られず。

Q76. 用法を答えよ。

大宮、御文をしたためらる。

Q77. 用法を答えよ。

心と心、引かる。

Q78. 用法を答えよ。

馬より落とさる。

Q79. 用法を答えよ。

院、御けしき改めらる。

Q80. 用法を答えよ。

我が身いみじういとほしく思ひやらる。

応用編 / 30

【第4部】 入試レベル (Q81~Q100)

難関大頻出・微妙な判別。

Q81. 用法を答えよ。

心ばへことに、思しめさる。

Q82. 用法を答えよ。

山風に紅葉散らさる。

Q83. 用法を答えよ。

御涙のこぼるるを、つつみあへ給はず。

Q84. 用法を答えよ。

ある時は、御使ひに召し出ださる。

Q85. 用法を答えよ。

御簾を上げて、月見らる。

Q86. 用法を答えよ。

雪深き道、行かれず。

Q87. 用法を答えよ。

いみじき露、袖に置かる。

Q88. 用法を答えよ。

故院の御面影、まのあたりに見らる。

Q89. 用法を答えよ。

中將、御文を持ち参らる。

Q90. 用法を答えよ。

病重く、起き上がられず。

Q91. 用法を答えよ。

御口惜しき御心ばへ、世にも知らるばかりなり。

Q92. 用法を答えよ。

心の闇に惑はる。

Q93. 用法を答えよ。

上、御けしきいとうるはしげに、聞こし召さる。

Q94. 用法を答えよ。

心づくしの秋風に、ますますあはれ思ひやらる。

Q95. 用法を答えよ。

罪に問はる。

Q96. 用法を答えよ。

御車寄せられぬれば、降り立たせ給ふ。

Q97. 用法を答えよ。

いはむかたなく、心細さおぼえらる。

Q98. 用法を答えよ。

御徳、ひろく世に施さる。

Q99. 用法を答えよ。

心安く眠られず、夜もすがら泣き明かさる。

採点振り返り

- 基礎 (Q1~Q20) : /20
- 標準 (Q21~Q50) : /30
- 応用 (Q51~Q80) : /30
- 入試レベル (Q81~Q100) : /20
- **合計 : /100**

8割 (80点) 以上で入試対応レベル。

あとがき

「る・らる」識別の核心 : - **打消とセット** → 可能 (~できない) - **主語が高貴 + 他敬語** → 尊敬 - **心情・知覚系** → 自発 - **動作主が他者** → 受身

主語・動詞・打消の3点で識別。古文の最重要文法の一つ。

著作権 : 個別指導塾フィット / 中本裕太